

2012年3月20日(火曜日)

# 平成24年度 当初予算が成立

## ～「にっぽんのふるさと」福井の躍進に～

2月定例県議会において、県の平成24年度当初予算が可決、成立しました。

県内では新幹線、高速道路など高速交通ネットワークの整備に向けた動きが進展する中、本県の立地条件が大きく向上しようとしています。

また、国内では東日本大震災を契機に、人とのつながりや人を元気にする「ふるさと」の大切さが再認識されました。

そこで、今回の予算では、「幸福度日本一」に選ばれるなど、つながりを大切にし、人を元気づける「にっぽんのふるさと」福井の魅力を全国に発信するとともに、皆さんの安全・安心を確保するためにできる対策を早急に行う観点から、次の5つの重点施策を柱としました。

### 平成24年度当初予算 5つの重点施策

- I. 「にっぽんのふるさと」福井の発信
- II. “世界に、未来に”産業の推進
- III. 「時代をリードする」人づくりの促進
- IV. 希望につながる「幸福度 日本一」の推進
- V. 「安全・安心」防災力の強化

### 予算の規模

(千円単位以下は切捨て)

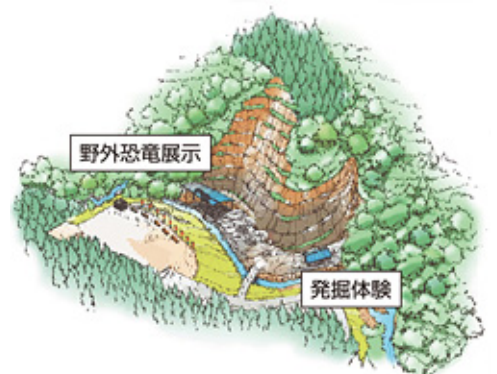
会計区分	24年度当初予算
一般会計	4,768億8,150万円
特別会計	130億7,101万円
企業会計	303億6,417万円
合計	5,203億1,669万円

## I 「にっぽんのふるさと」福井の発信

### 「恐竜キッズランド」構想を推進

年間50万人が来場している恐竜博物館を拠点に、周辺一帯で自然体験学習、ショッピングなどが楽しめる「恐竜キッズランド」構想の実現に向け、化石発掘現場周辺での実物足跡化石の展示や発掘体験広場の整備などを進めます。

また、恐竜フィギュアなど新たな土産品の開発、県公認の恐竜ロゴマークを活用した土産品の開発・販売の促進など、恐竜ブランドのビジネス化にも力を入れていきます。



整備を目指す野外博物館イメージ

### 戦国城下町の魅力を向上

観光客の増加が著しい一乗谷朝倉氏遺跡では、広く遺跡を眺望できる展望地点「物見台」を整備するほか、一乗谷朝倉氏遺跡資料館と遺跡を結ぶシャトルバスを運行するなど、遺跡全体のフィールドミュージアム化に向けて魅力を高めます。



戦国城下町の遺跡として注目の一乗谷朝倉氏遺跡

## 観光拠点をスケールアップ

舞鶴若狭自動車道の全線開通、北陸新幹線の金沢開業を見据え、小浜西組や三方五湖、敦賀港、あわら温泉周辺の景観を生かした観光まちなみの整備を支援。また、観光地を巡回するバスなど二次交通を充実し、観光客の利便性を高めます。

このほか、観光客が車窓から美観を楽しめるよう、「花いっぱい」の景観づくりを進めていきます。



歴史的な情緒が残る小浜市の三丁町

## 「福井ブランド」の発信力を強化

「ふくい南青山291」のサテライトショップを都内に新設。素材の良さを生かした福井の食を提供する「食品専門店」として、首都圏に広く福井の魅力、情報を発信し、販売力を高めます。

また、客観的良さを持ちながら、あまり知られていない歴史や文化資産、県産品などを、権威ある第三者による評価や専門家による出版などを通じて、「日本一ブランド」として全国にアピール。さらなるブランド価値の向上につなげます。

このほか、石川県の加賀エリアと連携し、北陸新幹線沿線エリアの主要駅周辺で、ポスターや電子広告などを使ったPRを行います。



中国の文豪、魯迅(ろじん)と本県出身の藤野巖九郎との心温まる師弟関係を描いたアニメをこのたび制作。魯迅の出身地であり、本県と友好提携関係にある浙江(せつこう)省での放映を通じて福井とのゆかりや絆をアピールし、交流と誘客のさらなる拡大を目指します。

## 全国に誇る「福井の食」をアピール

11月の第2日曜日から第3日曜日までを「ふくい味の週間」と定め、食関連イベントを集中的に開催。福井の「食」と優れた「食文化」を県内外に発信します。

また、小中学生に「味覚」を学ぶ機会を提供するほか、高校生の食育講座、妊婦や乳児を持つ母親を対象とした食事講座も開催するなど、食育にも力を入れていきます。

加えて、伝承料理など、福井の食の歴史や文化を「食の國(くに)ふくい」として全国にアピールします。



子どもたちへの食育も推進

## 福井産食材のブランド化で生産・販売拡大

食味検査に基づく区分集荷を応援し、福井米の品質、付加価値を向上するほか、有機栽培や特別栽培など「こだわり米」の登録制度を創設。統一名称を活用し、特に首都圏での販路拡大につなげます。

また、嶺南一円での周年型園芸の導入に向け、二酸化炭素削減効果の高いヒートポンプを活用した大規模ハウスを整備。四季を通じたミディトマトの生産を高浜町でモデル的に実践し、県内外での販売拡大を目指します。

このほか、水産会館に昨年オープンした「ふくいの地魚情報館」の周辺で、毎週金曜日に「旬の地魚テント市」を開催。福井の水産物の販売を促進

し、まちなかの賑わいづくりに貢献します。

## TOPIC II

日本穀物検定協会による平成23年産米の食味ランキングで、県産ハナエチゼンが10年ぶりに、5段階で上から2番目のA評価を獲得。コシヒカリも前年に引き続きA評価を受けました。今後は、最高ランクの特A評価を目指し、「五月(さつき)半ばの適期田植え」や大粒化、食味検査に基づく栽培改善をさらに進めます。



食味イベントで福井米の味を向上



新鮮な魚介類が魅力の地魚テント市 福井県を連想する統一名称によりブランド力を強化

## II “世界に、未来に” 産業の推進

### 海外ビジネスのサポート強化

「ふくい貿易促進機構」の販路開拓、金融、情報提供などの商社機能をレベルアップさせ、海外進出を目指す県内企業の応援を強化します。

また、中国、台湾の現地関係者と「福井・中国貿易拡大会議」を立ち上げるとともに、中国、台湾企業の流通関係者約50名を「福井産品応援者バンク」として組織化するなど、人脈を生かした販路拡大を支援します。

さらに、県立大学地域経済研究所にアジア経済部門を新設。企業の生の声を反映した現地市場調査、留学支援による人材育成など、バックアップ機能を充実します。



2月には西川知事が台湾政府にトップセールス

### 海外ビジネスをお考えの皆さんを 県内でサポートしています!

ふくい貿易促進プラザ  
福井市西木田2丁目8-1(福井商工会議所ビル6階)  
TEL:0776-89-1140 FAX:0776-89-1150  
E-mail:[f-plaza@fukui-kaigai.jp](mailto:f-plaza@fukui-kaigai.jp)



現地での商談会開催も支援

### アジアに開かれた県内港湾の活用促進

日本海側拠点港である敦賀港の利用を促進し、中国航路の新規開設を実現するため、県外企業に対する新たな助成制度を設け、ポートセールスも強化。また、荷さばき用施設を整備し、荷役能力とサービスを向上します。

このほか、従来の中国、韓国に加え、急速に成長するロシア極東エリアとの貿易の可能性について調査を行い、アジア対岸貿易を促進します。



敦賀港で韓国向けのコンテナ貨物を積み込む国際RORO船

## 新成長産業、ものづくり人材を育成

炭素繊維技術を活用した自動車用部材、太陽電池を織り込んだ織物など、福井の優位技術を生かし、将来の需要や成長を生み出す製品の研究開発、量産化に向け、重点的に投資します。

また、ものづくり分野の熟練技能者を継続雇用し、若手従業員に技能を継承する事業者を応援するほか、工業技術や調理の腕前を競う技能競技大会を開催。上位者を全国大会に派遣するなど、次世代の本県産業を支えるものづくり人材を確保、育成します。



県内のものづくり企業の応援、人材育成につなげようと、県と金融機関が連携して創設した100億円の「ふるさと企業育成ファンド(基金)」。この運用益を活用して、県内外の理工系大学院生を対象に、県内企業で7年間勤務すれば返済を免除する修学資金制度(月6万円)を設けています。現在、奨学生を募集中です。

問い合わせ: ふくい産業支援センター TEL.0776-67-7400



展示商談会で大手プラントメーカーに  
県内企業の高い技術力をアピール

## Ⅲ 「時代をリードする人づくり」の促進

### 幼児教育を充実

独自の「幼児教育支援プログラム」を策定するほか、新たに「幼児教育支援センター」を設置し、ゼロ歳児から高校生までの「福井型18年教育」のスタート期であり、人間形成の基礎を培う幼児教育を充実します。

また、幼稚園、保育所の教員等の研修の統一化や、小学校に円滑に移行するためのカリキュラムの導入を進めるほか、家庭における保護者の教育力向上を支援する拠点を開設します。



専門家による幼児教育フォーラムも開催

### 日本一の小中学生の学力をさらに向上

小中学校で授業やカリキュラムの改善を推進し、全国トップクラスの子どもの学力をさらに伸ばします。

小学校では、中学教員も協力して理科用の観察・実験指導集を作成するほか、インターネットを活用して算数の単元評価問題を配信。各学校で実施した結果を比較、分析し、個別指導、授業改善につなげます。

また、中学校の英語、数学では、習熟度に応じた少人数指導を実施。基礎学力を高め、理解度の高い生徒の応用力を強化します。

## TOPIC!!

子どもの「学力・体力日本一」を支える福井の教育を学んでもらおうと、これまで茨城県、三重県から教員の派遣を受け入れてきました。4月以降は、茨城県と相互に教員を派遣し、それぞれの強みを学び合いながら、福井の教育力のさらなる改善につなげます。



教材を活用し分かりやすい授業を実践

## 高校生の学力、教員の授業力アップ

高校では、難関大学を志望する生徒向けの特別講座「土曜チャレンジセミナー」を拡充するほか、センター試験対策など、学校独自の学力向上策を展開します。

また、外部専門家の助言、全校での生徒アンケートの結果を反映しながら、教員の授業力アップ、実践的な教材づくりを進めていきます。



複数校の高校生が参加する連携講座

## コミュニケーション重視の英語教育を推進

NHKと連携して英語のテキストを独自に作成するなど、音声重視の英語教育をさらに充実。国際社会で通用する英語コミュニケーション能力を育成します。

また、県内4ブロックごとに英語指導改善拠点校等を指定し、英語教員の海外語学研修や授業研究会の設置、外部検定試験を活用した英語力の検証を進め、その成果をブロック全体の授業改善につなげます。



英語漬けの合宿生活を送る「高校生英語キャンプ」

## 企業との連携強化で職業系高校の人材を育成

職業系高校と企業との連携を強化し、将来の産業、経済を担う人材育成を促進。熟練技術者を講師とした授業や実習、生徒や若手教員が企業現場で実習、研修を受けるシステムを導入します。

また、工業など専門分野の特色を生かした県内コンテストを開催するほか、難易度の高い資格取得を目指す生徒を応援し、生徒の「挑戦力」を高めます。

## 国体に向け競技力向上と施設整備を推進

平成30年の福井国体開催に向け、中高生を対象とした県内外での合宿の開催や、必要な備品の整備など、競技力向上に向けた支援を行います。また、県立ホッケー場やクレー射撃場、漕艇場などの整備も行き、着実に開催準備を進めていきます。

## TOPIC!!

広報紙「2018福井国体」を創刊。4万部を県内各地に配布しているほか、県ホームページに掲載しています。今後は年数回のペースで発行し、開催に向けた気運を醸成していきます。



子どもたちを対象にしたトッパースリートによる体験教室等を開催

## IV 希望につながる「幸福度 日本一」の推進

### 女性リーダーを育成し、子育てしやすい社会の実現を

日本一の共働き率を誇る福井の女性の活躍を応援し、女性リーダーが出やすい社会づくりを促進するため、必要な知識を体系的に学ぶ「未来きらりプログラム」を実行するほか、企業などで管理職を目指す女性の相談役となるメンターを養成。また、若い女性グループや、若手女性リーダーを登用する団体の活動も応援します。

このほか、福井の優れた子育て環境のさらなる充実に向け、仕事と育児の両立しやすい職場環境づくりを進める「子育てモデル企業」の活動を他企業にも波及させるなど、子育てしやすい働き方の推進、家族時間の伸長を目指します。



親子で楽しく遊んで過ごす子育てイベントも開催

## TOPIC!!

女性のリーダー育成、キャリアアップを推進するため、お茶の水女子大学と相互協力協定を締結。1月に羽入佐和子(はにゆうさわこ)学長と西川知事が協定書に調印しました。



### 若者のチャレンジを応援

夢や希望の実現に向かって挑戦する若者を応援する「若者チャレンジ応援プロジェクト」を拡充し、仲間に出会う機会を提供するほか、福井を元気にする活動、県外の若者との交流等を支援します。また、県外・海外での若者のチャレンジも応援します。



昨年12月に「ふくい若者チャレンジクラブ」を発足

### がん予防・治療対策を強化

日本海側初の「陽子線がん治療センター」における全国で最も安い料金での治療を維持するほか、各種助成制度を設け、県民の皆さんが治療を受けやすい環境を整備します。

また、県内全域でインターネットや携帯サイトを使って、いつでもがん検診の申込みができる予約システムを全国で初めて導入。がん検診の受診率50パーセントを目指し、さらに利便性を高めます。

## TOPIC!!

昨年3月のセンター開設以降、陽子線がん治療を受けた患者数は120名以上。目標を上回る成果をあげています。今後は、より精度の高い治療に向け、世界初の新機能を備えた3つ目の治療室のオープンを目指します。



入院せずに治療できる最先端の陽子線がん治療

## 在宅医療・介護サービスをさらに充実

介護が必要な高齢者の住宅の改修や、介護サービス付き住宅の建設を支援し、医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らしたいという多くの皆さんの希望に応えます。

また、在宅医療・介護スタッフを対象とした研修など人材育成も強化し、在宅サービスの質、量ともに充実します。

## V 「安全・安心」防災力の強化

### 災害時等の最初動対策の強化・拡充

無線、有線、衛星による通信手段の多重化を行い、いかなる災害時にも、関係機関と連絡、通信できる手段を確保します。

また、原子力発電所で事故等が発生した場合に、迅速な初動対応や事故制圧ができるよう、アクセス道路の多重化、防災機能の強化に着手。放射線モニタリングポスト増設による監視体制の強化、安定ヨウ素剤、線量計など防災資機材の整備も進めます。



関係機関と連携した実践的な訓練も実施

## エネルギー源の多角化を推進

「1市町1エネおこし」を目標に、地域の特色を生かした再生可能エネルギーの事業化に向け活動する団体を支援します。また、住宅用の太陽光発電設備と蓄電池をあわせて整備する家庭への支援を新たに行います。

加えて、日野川用水など農業用水を活用した小水力発電、九頭竜川浄化センターで発生するガスを活用した発電など、未利用エネルギーの開拓も推進し、エネルギー源の多角化、地球温暖化防止につなげていきます。



本県の自然再生のシンボルとして、越前市で飼育をスタートしたコウノトリのつがいの愛称が、約500件の応募の中から選ばれました。



[おす]ふっくん(福くん)

[めす]さっちゃん(幸ちゃん)

# 政策提案を募集しています!

新たに実施する事業を中心に、県の主な施策についてアイデアやご意見をお寄せください。提案は常時受け付けています。

重点募集期間 5月31日(木)まで

事業内容 県ホームページ「[皆様からの政策提案](#)」、県政情報センター(県庁1階)、各合同庁舎でご覧いただけます。

提案方法 インターネット「[ふくe-ねっと](#)」またはメール、FAX、郵送

問い合わせ 県政策推進課 TEL.0776(20)0226

詳しい内容は県のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。



問い合わせ: 福井県総務部財務企画課 TEL.0776(20)0233

 **BACK**